



有馬 純 東京大学公共政策大学院特任教授

昭和 34 年 7 月 23 日生 神奈川県横浜市出身

1975 年 彦根市立西中学校卒業

1978 年 滋賀県立彦根東高等学校卒業

1982 年 東京大学経済学部卒、同年通商産業省（現経済産業省）入省

1996-1999 年 経済協力開発機構（OECD）日本政府代表部参事官

1999-2001 年 資源エネルギー庁エネルギー環境対策室長、統括省エネ対策官、新エネ政策調整  
官

2001-2002 年 資源エネルギー庁国際エネルギー戦略企画官

2002-2006 年 国際エネルギー機関（IEA）国別審査課長

2006-2007 年 資源エネルギー庁国際課長

2007-2008 年 資源エネルギー庁エネルギー交渉担当参事官

2008-2011 年 大臣官房審議官地球環境問題担当

2011-2015 年 日本貿易振興機構（JETRO）ロンドン事務所長兼地球環境問題特別調査員

2015 年 8 月 東京大学公共政策大学院教授(研究休職)

2018 年 3 月 経済産業省退官、東京大学公共政策大学院教授として採用

2021 年 4 月 東京大学公共政策大学院特任教授

経済産業研究所（ERIA）コンサルティングフェロー、アジア太平洋研究所上席研究員、アジア太平洋エネルギー研究センター（APEREC）評議員、原子力産業協会理事、東アジア ASEAN 経済研究センター（ERIA）シニアポリシーフェロー。IPCC 第 6 次評価報告書執筆者。これまで COP に 17 回参加。

著書

“Energy Policies of the IEA Countries” (2003-2006 editions),

「私的京都議定書始末記」(2014 年 10 月国際環境経済研究所)

「地球温暖化交渉の真実—国益をかけた経済戦争—」(2015年9月中央公論新社)

「精神論抜き地球温暖化対策—パリ協定とその後—」(2016年10月エネルギーフォーラム社)

「トランプリスク-米国第一主義と地球温暖化-」(2017年10月エネルギーフォーラム社)

「SDGsの不都合な真実 脱炭素が世界を救うの大嘘」(共著) (2021年9月宝島社)

「英語でもっとわかる! SDGsの環境問題」(共著) (2021年11月コスモピア編集部)

「亡国の環境原理主義」(2021年10月エネルギーフォーラム社)

「エコファシズム 脱炭素・脱原発・再エネ推進という病」(共著) (2022年10月育鵬社)

“Policy Recommendations by the Quadripartite Commission on the Indian Ocean Regional Security” (Chapter 2) (2017 Sasakawa Peace Foundation)

“Japan’s Energy Conundrum” (Chapter 11) (2018 Sasakawa Peace Foundation)

“Finding a Viable Path for Reducing GHG Emissions” (2019 King Abdullah Petroleum Studies and Research Center (KAPSARC))

Eco-fundamentalism as a Grist for China’s Mill (2021 GWPF)

The Death of the 1.5 Degree Climate Target (with Vijaya Ramachandran) (2024 Foreign Policy)